



No. **40**  
20. January. 2018

日本ホスピス緩和ケア協会

# NEWS LETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所内

TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website <http://www.hpcj.org/> E-mail [info@hpcj.org](mailto:info@hpcj.org)



## 新春メッセージ

日本ホスピス緩和ケア協会会員の皆さんへ  
質の高い緩和ケアへ



特定非営利活動法人  
日本ホスピス緩和ケア協会  
副理事長 石原 辰彦

明けましておめでとうございます。2018年の新春を迎え、会員の皆様へメッセージをお送りいたします。

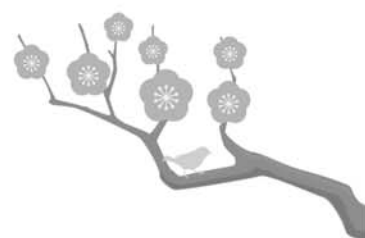
ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）とは、世界の全ての人が保健医療サービスを負担可能な費用で受けられるようにする国際的な目標であり、誰もが質の高い医療を支払い可能な金銭的負担で受けられるべきだという考え方で、日本では国民皆保険として知られています。このUHCの実現に向けた対策を議論する国際会議が12月13日・14日に東京都内で開催され、「UHC東京宣言」が採択されました。2030年までにUHCを達成すべく取組を加速させ、誰であろうと、どこに住んでいようと、世界中すべての人々に保健医療サービスを普及させるとのコミットメントを再確認するものであり、この保健医療サービスには緩和医療に関するものも含まれます。

日本では、がん対策基本法やがん対策推進基本計画に基づいて、いつでも、どこでも、誰もが、質の高い緩和ケアが受けられるように、様々な活動が行われていますが、そのうち「質の高い」を担保するのが当協会の役割です。協会の定款に、「ホスピス

緩和ケアの普及と啓発及びサービスの質の確保と向上等に関する事業を行う」とあり、委員会活動を中心として、啓発・普及、教育・研修、ケアの質の確保と向上、広報・情報提供、連携・国際交流、政策提言と言った6つの事業を行っています。

教育・研修については、教育支援委員会を看護師教育支援委員会と多職種教育支援委員会の2つに分け、私は多職種教育支援委員会の委員長を仰せつかっています。委員会では、各支部、各県、各施設で行う多職種を対象とした教育や研修のプログラムの提案や、年次大会開催時に行うMSWセミナーの実施を担当しています。多職種教育は、支部活動での実施が重要と考え、今まで協会で作成したプログラムに限らず、他の団体で作成されたものも情報として提供できるようにしたいと考えています。

また、協会としては政策提言も活発に行っており、2018年4月の診療報酬・介護報酬同時改定に向けての提言も厚生労働省に対して行っております。どのような改定になるかわかりませんが、その時代の情勢に合わせた緩和ケアを目指して、日々努力することが求められます。俯瞰の目で自らの立ち位置を確認し、医療の中で、そして患者の生活の中で、最適な緩和ケアを提供したいと思えます。



# 2018年度年次大会 開催スケジュールが決定！

**日時** 2018年 7月14日(土)・15日(日)

**会場** 東京ビッグサイト会議棟 (7階国際会議場・6階会議室)

〒135-0063 東京都江東区有明3-11-1 <http://www.bigsight.jp/>



## 1日目 7月14日(土)

- ◆13:30~14:30 総会
- ◆14:30~17:30 講演「在宅緩和ケア基準作成の経緯」  
パネルディスカッション  
「在宅緩和ケアにおけるケアの質の評価と保証をどう考えるか」
- ◆18:00~20:00 懇親会

## 2日目 7月15日(日)

### ◆分科会 9:00~12:00

#### テーマ

- 1) 緩和ケアの質とは何か
- 2) 多職種カンファレンス  
～患者にとって最善の診療方針について多職種で合意形成する
- 3) SPACE-Nにおける対話と探求を体験してみよう
- 4) 2018年診療報酬・介護報酬改定の評価と  
次期改定に向けての方向性について
- 5) 緩和ケア外来の現状と課題～患者を支える緩和ケア外来の在り方  
～アンケート結果から見てきたこと～
- 6) 緩和ケア病棟の遺族ケア: 私たちにできるピルピメントケアを考える
- 7) 緩和ケアチームのリーダーシップ

#### 担当

認証委員会・データベース委員会  
多職種教育支援委員会

看護師教育支援委員会  
医療・介護保険委員会

緩和ケア専門外来ワーキンググループ

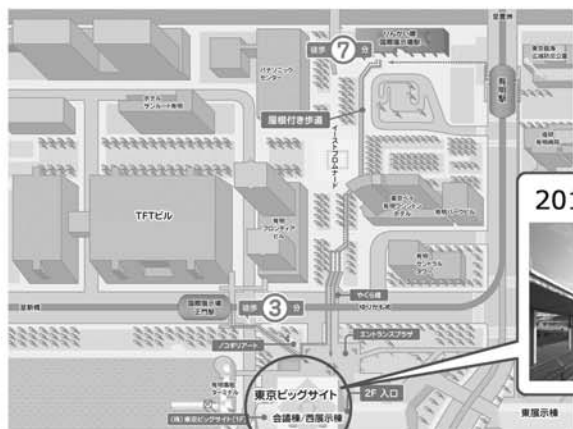
質のマネジメント委員会  
協会理事: 恒藤 暁・岡本 禎晃

### ◆特別企画セミナー 13:00~16:00

- 1) 緩和ケア病棟運営管理者セミナー(対象: 緩和ケア病棟の運営管理者)  
「緩和ケア病棟における長期入院への対応」
- 2) MSWセミナー(対象: ホスピス・緩和ケア領域専従のソーシャルワーカー)  
「患者を中心としたネットワーク構築」
- 3) SPACE-Nフォローアップ研修(対象: SPACE-N修了者)



・申し込み方法や各プログラムの詳細は、4月上旬にご案内いたします。プログラムは変更となる場合があります。



2018年大会会場

## 東京ビッグサイトへのアクセス

- りんかい線  
「国際展示場駅」から徒歩7分
- ゆりかもめ  
「国際展示場正門駅」から徒歩3分
- バス  
都営バス 東京駅八重洲口(豊洲駅経由) → 東京ビッグサイト下車  
空港バス 羽田空港 → 東京ビッグサイト下車  
成田空港 → 東京ベイ有明ワントホテル 下車徒歩3分
- 駐車場完備(1日最大2,000円)

# 2017年度 ホスピス緩和ケア週間

2017.10.8[sun] - 14[sat]

日本ホスピス緩和ケア協会では、「世界ホスピス緩和ケアデー(World Hospice and Palliative Care Day)」を最終日とした一週間(2017年度は10月8日～14日)を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示及びセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいます。

第12回目を迎えた本年もポスター・チラシを作成し、協会会員をはじめ、がん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会会員、日本死の臨床研究会会員など、全国の関係者に案内して企画の開催を呼び掛けたところ、136の企画登録がありました。

今年度は、「Voices for Hospices」(ホスピス緩和ケアの普及を目指して歌声で世界を結ぶチャリティー運動)の開催年でもあり、コンサートを行った施設が例年より多くみられました。また、病院と在宅の連携やサポート体制について紹介する企画や、アドバンス・ケア・プランニング、終活といった、もしもの時にどうするかを取り上げた企画などが開催され、市民や医療福祉関係者など7,300名あまりの参加がありました(展示会の参加者は含まず)。

実施施設からは「近隣施設の緩和ケアへの関心の高さを感じ、改めて地域連携の重要性を確信しました」「地域住民に向けての普及活動の足がかりにしていきたい」といった報告が寄せられました。



## 当日の様子

各企画より提出された写真の一部をご紹介します。

### 北海道



一般市民対象の講演会  
【札幌南徳洲会病院】

### 宮城県



ヨガ体験  
【東北労災病院】

### 埼玉県



市民講座  
【吉川中央総合病院】

### 千葉県



院内コンサート  
【順天堂大学医学部附属浦安病院】

### 東京都



ホスピス連携の会  
【救世軍ブース記念病院】

### 東京都



緩和ケア病棟見学会  
【がん研究会有明病院】

# World hospice & palliative care day

## 世界のホスピス緩和ケアデー

2017年度の世界ホスピス緩和ケアデー（World Hospice and Palliative Care Day）は「Universal Health Coverage and Palliative Care – Don't leave those suffering behind」をテーマとして実施されました。

各国の企画の様子は、以下のホームページでご覧いただけます。

<http://www.thewhpc.org/world-hospice-and-palliative-care-day>



左上：インドネシア、右上：ケニア、左下：中国、右下：イギリス  
（緩和ケアデーに企画登録している各国の団体ウェブサイトの報告より）

### 富山県



看護師による寸劇  
【富山県緩和ケア認定看護師会 砺波支部会】

### 岐阜県



在宅医療推進フォーラム  
【社会福祉法人和光会】

### 愛知県



ハレルヤ合唱  
【豊橋・生と死を考える会】

### 滋賀県



音楽療法士による演奏会  
【市立長浜病院】

### 大阪府



まちかど「がん相談」  
【堺市2次医療圏がん診療ネットワーク協議会】※

### 京都府



緩和ケア連携に関するパネルディスカッション  
【日本パテテスト病院】

### 兵庫県



出張緩和ケア講座  
【尼崎医療生協病院】

### 島根県



メディカルカフェ  
【松江市立病院】

### 広島県



栄養相談・口腔ケアコーナー  
【広島大学病院】

※大阪労災病院、堺市立総合医療センター、ベルランド総合病院、近畿中央胸部疾患センター、耳原総合病院の5病院共催

## 徳島県



コンサート

【ホスピス徳島がん基金/近藤内科病院】

## 福岡県



見学会での講話

【みどりの杜病院】

## 長崎県



パネル展示

【南野病院】

## 沖縄県



カラーセラピー

【琉球大学医学部附属病院】

### 企画内容

① 一般市民向けの講演会・フォーラム等	51
② 医療従事者向けのセミナー・研究会等	10
③ コンサート・演劇等	37
④ ホスピス緩和ケア関連のパネル展示	43
⑤ 緩和ケア相談コーナーの設置	35
⑥ チラシ・グッズ等の配付	17
⑦ 緩和ケア病棟の見学会	25
⑧ 体験・試食コーナー等の設置	29
⑨ 作品展・写真展	6
⑩ ホスピス緩和ケアに関する動画の上映	8
⑪ お茶会・がんサロンの開催	8
⑫ 遺族会・他病棟との職員懇親会等	4

合計 271

※1つの企画内で複数のイベントを開催した場合はそれぞれをカウント

### 参加者内訳

一般市民/患者(入院・外来)/家族/遺族/医師/看護師/看護助手/薬剤師/臨床心理士/ソーシャルワーカー/カウンセラー/理学療法士/作業療法士/言語聴覚士/放射線技師/臨床工学士/管理栄養士/歯科衛生士/音楽療法士/ケアマネジャー/保健師/介護福祉士/事務員/チャプレン/ボランティア/医学生・看護学生・薬学生 他

合計：7,349名(人数が曖昧な報告・展示会来場者は含まず)

### 企画参加施設種別

協会会員 91施設 / 会員以外 41施設

【協会正会員】内訳

緩和ケア病棟	… 74	緩和ケアチーム	… 5
一般病院	… 7	診療所	… 2
【準・賛助会員】	… 3		

【会員以外】内訳 (学会:日本緩和医療学会、研究会:日本死の臨床研究会)

がん診療連携拠点病院	… 6	学会会員	… 15
学会会員・拠点病院	… 10	学会・研究会会員	… 2
学会会員・研究会会員・拠点病院	… 4		
不明(無記入)	… 4		

※複数の施設が1つの団体として主催している場合は、代表施設のみを参加施設とした

### 2018年度

### 世界ホスピス緩和ケアデー & ホスピス緩和ケア週間

2018年度の「ホスピス緩和ケア週間」は、10月13日(土)に予定されている「世界ホスピス緩和ケアデー」を最終日とした、10月7日(日)～10月13日(土)の一週間を予定しています。詳細については、8月頃にご案内いたしますが、皆様には引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通じた啓発・普及活動にご協力下さいますよう、お願い申し上げます。



2017年12月2日、ベルサール八重洲にて、第26回理事会が開催されました。

事務局より2017年7月に行われた総会以降の入退会状況とホスピス緩和ケア週間の実施状況の報告、各専門委員会からの活動報告、また、2018年度の年次大会プログラム、役員の変更、APHC2021開催について等が話し合われました。以下に、各委員会の活動状況をご報告いたします。

## 専門委員会活動

### ◆認証委員会

- ・正司明美氏、河正子氏が新たに委員として加わり、5名で委員会を運営することになった。
- ・2018年の認証申請に向けて、スケジュールや申請方法の確認を行った。前回の認証申請では、第三者評価を受けていることの証明として、J-HOPE調査報告の表紙や医療機能評価結果のコピーを申請書類に添えていただいていたが、事務局で受審状況等が確認できる項目については、コピーの同封を不要とし、会員が準備する書類を簡略化する。
- ・現在は会員専用ページにのみ認証施設の一覧表を掲載しているが、一般の方にも認証を受けている施設を公開した方が良いのではないかと考えている。どのような形で公表するかについては、今後委員会で検討していく。

### ◆緩和ケアデータベース委員会

- ・2016年度に協会としての遺族調査をJ-HOPE2016として実施したが、今後、インターネットを利用した遺族調査を通年的に行いたいと考えており、臨床研究の形で試行の研究調査を立ち上げている。試行調査に協力してくれる施設は既に決まっており、現在は業者の選定を行っているところである。

### ◆質のマネジメント委員会

#### 1. 緩和ケア病棟運営管理者セミナーについて

- ・2017年度は「カンファレンスの持ち方」をテーマに開催したところ、約97%の方が「役に立った」と回答し、内41%が「とても役に立った」との回答だった。昨年度のセミナーでは「とても役に立った」は26%程度だったので、今回は参加者の評価が大変高かった。
- ・2018年度のテーマは、「緩和ケア病棟における長期入院への対応」について取り上げる。事前にアンケート調査を行い、入退院にどのような基準を設けているかなど調査した上で議論できるよう準備を進めていく。

#### 2. 自施設評価共有プログラムについて

- ・自施設評価は隔年に実施しており、前回の実施後にアンケート調査を行ったところ、多職種で改善について話し合う良いきっかけになったなどの回答が多く寄せられ、実施施設からの評価が高い。2018年度は実施年となるので、前回と同じ内容・スケジュールで進めていきたいと考えている。5月に発行するニューズレターに広報用のポスターを同封し、8月に自施設評価の書類一式を郵送した後、メールでも配信する予定である。

### 3. 緩和ケア病棟運営の手引きについて

- ・2014年に発行した「緩和ケア病棟運営の手引き」に、「遺族ケアプログラム」、「緩和ケア病棟における緊急入院の対応」、「多職種カンファレンス開催のための課題と工夫」の3つを追加した追補版を、2018年度の年次大会で配布できるよう作業を進めている。

### ◆多職種教育支援委員会

- ・多職種を対象とした教育プログラムについて、年次大会分科会にて参加者の皆さんと共有しながら検討を進めている。今後は、各支部でも活用できるよう内容を充実させていく。
- ・MSWセミナーは、年次大会の日程に合わせて開催している。3年コースで実施することになっており、2018年度は3年目となるので、終了後に次の活動に向けて話し合う予定である。
- ・緩和ケア病棟での医師研修プログラムについては、日本緩和医療学会から「緩和医療専門医をめざす医師のための研修カリキュラム」の改訂版が出たので、その内容と照らし合わせて改訂を検討したい。

### ◆看護師教育支援委員会

#### 1. ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムの開催支援

- ・委員会では、2025年までに会員各施設における看護師の常時60%以上が、ELNEC-Jを修了していることを目標として、各支部においてELNEC-Jを開催し、参加してもらえるよう呼びかけている。現時点では、325施設の看護師5,763名中、修了者が50%以上の施設は116施設(38%)、ELNEC-J指導者がいない施設は118施設(39%)となっている。受講者率は少しずつだが上がっている。



[左から田村副理事長・志真理事長・石原副理事長]

## 2. 専門的緩和ケア看護師教育プログラム(SPACE-N)

・SPACE-Nは2014年から開催しており、2017年度の修了者は関西で29名、関東で29名(他1名保留)の計58名、累計210名となった。まだ修了者が1人もいない県が5県あり、各都道府県1人は受けていただきたいと考えている。2018年度も8月末から12月までの日程で、関東と関西でそれぞれ開催を予定している。

### ◆医療・介護保険委員会

・2018年度は診療報酬・介護報酬同時改定の年となっており、2017年8月に協会から厚生労働大臣宛てに政策提言を提出した。現在、同時改定に向けて、中央社会保険医療協議会(中医協)で活発な意見が交わされている。

・介護保険、医療保険の連携が密に行われるようになってきているので、医療・介護のセットの有用なモデル、簡略化のモデルなどを協会として厚労省に提示してはどうかと考えている。

また、協会が行った提言と実際の改定との比較検討、問題の共有のため、年次大会の際に実態調査を行うことについても検討している。

### ◇在宅緩和ケア基準改訂ワーキンググループ

・「在宅緩和ケア基準」を作成し、協会ウェブサイトにて公開した。詳細については本ニューズレターの9ページにて報告している。

### ◇緩和ケア外来ワーキンググループ

・会員施設における緩和ケア外来の現状を知り、今後の緩和ケア外来の方向性を探るために、アンケート調査を実施することを考えている。メーリングリストで調査項目などを検討し、2018年1月発行のニューズレターに同封して依頼する予定である。



## Asia Pacific Hospice Conference[APHC]2021日本開催



### ■準備委員会が立ち上がりました■

メンバーは協会常任理事6名の他、Asia Pacific Hospice Palliative Care Network (APHN) の顧問である柏木哲夫氏、理事である木澤義之氏、森雅紀氏とし、12月2日に第一回会議を開催しました。

今後、APHNに加盟している日本の各団体、緩和ケアの関連団体に呼び掛け、2021年の開催に向けて、準備を進めていくこととなりました。

開催日程：2021年 11月 10日～13日

開催地：兵庫県神戸市



## がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会開催指針の改正について

2017年12月 1日、厚生労働省健康局がん・疾病対策課より協会理事長宛に、新しい「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」の通知があり、関係者へ周知して欲しいとのことでしたので、正会員の連絡担当者へメールにて配信いたしました。

緩和ケアの領域に関わる主な変更部分としては、研修対象者が「がん診療に携わるすべての医師」から「…これらの医師・歯科医師と協働し、緩和ケアに従事するその他の医療従事者」に拡大されたことに加え、「全医師が受講を望ましい施設」として、「拠点病院等と連携する在宅療養支援診療所・病院および緩和ケア病棟を有する病院」が追加された文章になっております。

厚生労働省からの通知文書・資料を協会ウェブサイトに掲載していますので、詳細は下記のアドレスからご確認ください。



通知文書・送付資料は協会ウェブサイト「厚生労働省の通知等」からご覧いただけます。

[https://www.hpcj.org/info/info\\_index.html](https://www.hpcj.org/info/info_index.html)

# 「在宅緩和ケアの基準」作成について

医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院 総 長  
在宅緩和ケア基準ワーキンググループ 部長 前野 宏

2016年4月の診療報酬改定において、「在宅緩和ケア充実診療所（病院）加算」が新設され、初めて診療報酬の中に「在宅緩和ケア」が明記されました。診療報酬の改定後約2年が経過し、「在宅緩和ケア充実診療所・病院」を届け出ている施設は、2017年11月14日現在、585施設（内、病院は55施設）に及んでおります。しかしながら、現在これらの施設の診療およびケアの質を担保する共通の基準は存在せず、今後在宅緩和ケアを質量ともに発展させるためには、全ての施設が共有できる「在宅緩和ケアの基準」が必要です。

さて、当協会におきましては、2008年に故岡部 健先生（医療法人社団爽秋会）やニノ坂 保喜先生（にのさかクリニック）などが中心となり、「在宅ホスピス緩和ケアの基準」が作成されました。それから約10年が経過し、上記のような社会的な背景を踏まえ、当協会の「在宅ホスピス緩和ケアの基準」を改定し、協会以外の施設にも共有して頂けるような「在宅緩和ケアの基準」を作成することに致しました。

このたびの作業にあたりましては、まず在宅ホスピス緩和ケア基準改定ワーキンググループ（ニノ坂、矢津、山崎、前野）により「在宅緩和ケアの基準（案）」を作成致しました。その際、日本在宅ホスピス協会の「在宅ホスピスケアの基準」や緩和ケア診療所連絡協議会（PCC）の会員である大岩 孝司先生による「在宅ホスピス緩和ケア基準案」も参考にさせていただきました。原案が作成された後、当協会のメンバー10人により、デルファイ法を2回行い、理事会のご意見を頂き、最終案が作成されました。

在宅緩和ケアの領域は、今後介護部門の方々の参加や非がん患者についての在宅緩和ケアといった課題が山積しており、今回作成した基準も状況の変化に応じて見直しが必要になるかもしれませんが、ひとまず全ての関係者が共有できる基準が出来上がったのではないかと考えております。

## 【在宅緩和ケアの基準】

2017年9月23日作成

### 1. 在宅緩和ケアの理念

- 1) 在宅緩和ケアは、生命を脅かす疾患に直面する患者とその家族が在宅（介護施設を含む自宅あるいはそれに準じる場所）で過ごすために、QOL（人生と生活の質）の改善を目的とし、WHOの緩和ケアの定義に基づき、様々な専門職とボランティアがチームとして提供するケアである。

### 2. 在宅緩和ケアチームの構成

- 1) チームメンバーは、患者・家族の必要に応じて、在宅緩和ケアの理念に基づき、柔軟に構成される。
- 2) 基本となるチームメンバー…医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員（ケアマネジャー）、介護士（介護福祉士等）、ソーシャルワーカー（社会福祉士等）、作業療法士、理学療法士、歯科医師、栄養士、ボランティア等

### 3. 在宅緩和ケアチームの要件

- 1) 在宅における24時間対応のケアを提供する。
- 2) チーム内での連絡が24時間可能であり、連絡を密に取ることができる体制がある。
- 3) ケアマネジャー、ソーシャルワーカーをはじめ、相談支援及び地域の様々な資源との連携を図る機能を持つスタッフをチームに配置する。

### 4. 在宅緩和ケアで提供されるケアと治療

- 1) 痛みやその他の苦痛となる症状を適切かつ迅速に緩和する。
- 2) 患者・家族に対する心理・社会的問題、スピリチュアルな問題での相談支援がなされる。
- 3) 患者と家族の希望に応じて、病状や病期の説明を行い、在宅において安心して生活することができるように支援する。

- 4) ケアや治療の方針決定に関しては、患者・家族と医療者が正確な情報を共有し、話し合いを重ねつつ、本人の意思決定を支援する。
- 5) 最期まで在宅で過ごしたいと希望する患者に対しては、穏やかな最期を迎えられる様に症状緩和を計りつつ、家族に対しては適切なタイミングで看取りに関する情報提供を行う。
- 6) 患者と家族のコミュニケーションが最期まで維持されるように支援する。
- 7) 死別前から死別後までの家族ケア（遺族会などのグリーフケア）を行う。

### 5. 在宅緩和ケアチームの運営

- 1) チームで共通の在宅緩和ケアを実践するための手順書（マニュアル）を備え、チーム内で共有する。
- 2) チーム内で定期的にかつ必要時、カンファレンスを実施する。
- 3) チーム内で在宅緩和ケアに関する定期的な教育研修を行う。
- 4) 在宅緩和ケアの質の向上のための研究活動を行う。
- 5) チームで倫理的指針を作成し、共有する。また、現場で定期的に、あるいは必要に応じて倫理的検討を行う。
- 6) チームは提供したケアと治療およびチームのあり方について、継続的かつ包括的に評価して見直しを行う。

### 6. 在宅緩和ケアチームのコミュニティにおける役割

- 1) 地域で在宅ケアを行う診療所、事業所等の医療・介護従事者、臨床研修医、学生、ボランティア等に教育研修の場を提供する。
- 2) 市民への啓発活動を積極的に行う。
- 3) 地域で緩和ケアネットワーク作りを実践する。
- 4) 地域の各種社会資源を調査、発掘し、連携を図る。



## 入会・施設基準届出受理施設について

2017年7月の総会以降、下記の通り入会がありましたので、ご報告致します。

- ★緩和ケア病棟入院届出受理施設
- ☆緩和ケア診療加算届出受理施設
- ・一般病院、診療所



### 【正会員：新入会】

- ★吉田病院（北海道旭川市）
- ★徳島市民病院（徳島県徳島市）
- ★A O I 国際病院（神奈川県川崎市）
- ☆大阪急性期・総合医療センター（大阪府大阪市）
- ・倉敷市立児島市民病院（岡山県倉敷市）
- ・石巻市立病院（宮城県石巻市）
- ・長野中央病院（長野県長野市）
- ・かもだの診療所（高知県高知市）

### 【正会員：一般病院・準会員からの区分変更】

- ★福岡聖恵病院（福岡県古賀市）
- ★宮崎市郡医師会病院（宮城県宮崎市）

### 【準会員：新入会】

- 【個人】岩井 典子（神奈川県鎌倉市）  
土屋 清美（東京都練馬区）  
勝部真美枝（島根県松江市）  
後藤 直美（広島県尾道市）

### 【賛助会員：新入会】

- 【個人】武田 美帆（神奈川県茅ヶ崎市）

## 会員動向 (2018年1月10日現在)

地域別	正会員				準会員		賛助会員		合計
	病棟	チーム	一般病院	診療所	法人	個人	法人	個人	
北海道	19	3	2	3	4	5	0	2	38
東北	19	3	2	8	4	0	0	2	38
関東甲信越	86	19	10	18	10	36	5	14	198
東海北陸	37	2	4	4	0	10	0	2	59
近畿	49	6	3	8	3	15	1	3	88
中国	30	1	4	4	2	9	1	1	52
四国	18	1	3	1	2	3	0	1	29
九州	79	4	4	10	2	8	0	1	108
合計	337	39	32	56	27	86	7	26	610

## ご寄付について

当協会では、事業に賛同し応援して下さる個人や団体からのご寄付を受け付けており、前回報告以降、下記の方々よりご寄付をいただきました。ご厚情に心よりお礼申し上げます。

田中 巖様（東京都） 原 知克様（東京都）

なお、ご寄付の詳細につきましては、事務局までお問い合わせいただければ、関係資料をお送りいたします。直接お振込みいただく場合、振込先は下記の通りです。

### 【振込先】

三菱東京UFJ銀行 新富町支店  
口座：普通預金 3677396  
名義：日本ホスピス緩和ケア協会 理事長 志真泰夫

## 2018年は緩和ケア病棟における 質向上の取り組みに関する 認証制度の申請受付年です

2018年11月に、緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度の申請受けを予定しています（9月頃、対象施設の連絡担当者へ郵送）。認証を受けるためには、本年実施される下記事業への参加が必要です。

- ◆ 4～5月 施設概要・利用状況調査
- ◆ 9～10月 自施設評価共有プログラム

この他に、第三者による評価を受けている、または自主的な遺族調査を実施していることが要件となります。第三者による評価とは、「J-HOPE」、「日本医療機能評価機構の付加機能（緩和ケア）評価」、「機能種別版病院機能評価（緩和ケア）」の内いずれか1つで、認証申請から遡って5年以内に通知や結果が報告されているものが有効です。詳細は、後日ご案内する予定です。

## 求人広告の掲載について

当協会では、ホスピス緩和ケアに携わるスタッフの充実をはかり、ケアの質の向上を目指すことを目的として、正会員施設の求人情報をホームページに掲載しています。利用を希望する場合は、ホームページの会員専用ページから求人登録票をダウンロードし、必要事項を記載の上、協会事務局まで郵送して下さい。掲載期間は四ヶ月（延長申請可能）で、掲載費用は無料です。



---

日本ホスピス緩和ケア協会 ニュースレター No.40

発行日 2018年 1月 20日  
発行所 日本ホスピス緩和ケア協会事務局  
事務局 〒259-0151  
神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1  
ピースハウスホスピス教育研究所内  
TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382  
E-Mail info@hpcj.org

---